



国労せんだい

No. 2591
2010年9月10日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

紆余曲折もあったが、団結が全て

橋本委員長 受けた支援は運動で返す



地方本部は8月28日、仙台市内ホテル白萩において、JR不採用問題の解決報告集会を開催した。この集会はこの間お世話になった、共闘組織、弁護士、政党、退職者・家族会と地方本部内各機関組織の代表者を一堂に招いて、事件解決の報告と御礼を行ったもの。

集会は、佐藤歳子婦人部長の司会で開会し、冒頭、仙台闘争団の菅原次男氏を含む、亡くなられた闘争団員65名と福島県闘争本部長を務めた斎藤幸次氏に対し、黙祷が捧げられた。

橋本委員長はあいさつで、「不当解雇と不名誉なレッテルを張られ、精神・肉体・経済的に追い詰められながらも闘い続け、また余曲折もあったが、本部を先頭に団の意見も尊重しながら様々な行動を展開。一致団結し四者四団の枠組みを堅持、運輸機構・国交省・政治に解決を求め突き進んだ。

解決を迎えた五つの力



87年の分割・民営化の際に多くの組合員が不当差別、不法行為を受けた。

私たちはこれを許さない立場で労働委員会闘争、裁判闘争、ILOへの申し立て等を取り組んできた。

解決を迎えられた要因の一つは1047名が、粘り強く闘いを続けてきたこと。

二つ目は差別を受け、低賃金に喘ぎながらも23年間もカンパをし続け我々を支え続けてきたJR組合員の力。

三つ目は連帯する会・支える会などはOBの方々の献身的な努力の賜。

更に四つ目は政治の力。

不採用問題の終結をめざす

三党連立政権が出来、3月19日から4月9日の「あの隙間・期間」しか解決の時期はなかったといわれており、政治が大きな力を発揮した。

五つ目は国労の団結の力。運動の進め方の違いで紆余曲折もあったが、団結が全て。

今後の闘いと決意

ただし、金銭的解決はJR不採用「事件」は解決したが、JR不採用「問題」という雇用問題が残る。今後の闘いと決意。

今日まで支援を頂いたみなさんに心から感謝し、この問題が一日も早く最終的な決着を見るよう奮闘する決意である。

8・9 第10回執行委員会・闘争委員会
太田博二さんに感謝する集い
8・21 地本アスベスト対策委員会

闘争団員の御礼の言葉



仙台闘争団 高橋敏夫団長

あらゆる差別を受けながらも自分のこととして共に闘い支えてきた組合員の闘いがあった」と23年に及ぶ闘争団・家族の長い闘いの経過とその闘いを支えた組合員に対して御礼を述べた。

また、「関係する全ての皆さんと解決を確認し、闘争団員と家族の皆さんが、新たな人生を歩みだすステップに」と集会の趣旨を述べた。更に、全ての支援を受けた方々に対しては、「運動で返す」と表明した。

続いて、社民党、共産党、東日本本部があいさつ。

国労本部を代表し、闘争団全国連絡会議神宮義秋議長があいさつを述べた。

【左囲みに要旨】

仙台闘争団 佐藤正則事務局長



▼不当処分により解雇されたが、人間として労働者として成長させてくれた国労に感謝している▼地労委の勝利命令は本当に嬉しかったが、中労委で見解が割れ、裁判闘争に。最高裁は「JRに責任なし」▼何としても覆し、職場復帰したい。様々な経過があり地位確認の第

「安心して働ける社会」を作るために奮闘したい

▼菅原次男君は亡くなってしまったが、残るみんなはこの日を迎えられる▼私は郡客事件が不採用の根拠にされた。「福岡事件」で死刑判決を受け、無実を叫びながら死刑を執行された西さんの句「叫びたし寒満月の割れるほど」が心に残る▼首切りされた悔しさを持ち続け、「首切りのない社会」

視

点

トカゲの尻尾切りでないか

昨年9月10日に発生した仙台駅新幹線構内でのトロリー線張替工事の労災死亡事故について、仙台東署は8月11日、巻き取り装置（架線作業車の一部装置）を扱っていた作業員を業務上過失致死の容疑で書類送検した。

この装置は、従来工法とは全く違う機能を有し、導入時、メーカーによるマニュアルを用いての説明は行われたものの、今回の事故で発生した危険な事象に対する注意喚起や説明は行われていない。

事故発生直後の検証試験では、誰もが予想もしない巻き取り装置の張力（設定張力の約2倍）が発生し、JR社員・電設社員らは騒然としたというが、要するに誰でもこうした事故を発生させる可能性があったということである。

検察は事故の本質見破れ

後に認めている「取り扱いに対する不十分な教育」「マニュアルの不備」など事故に繋がる要因が存在していたが、警察は一操作員に直接責任を押し付けた。これには亡くなった国分さんも首を傾げているに違いない。

事件としては、今後の推移を見守るしかないが、書類を受けた検察は、今回の事故の本質を見誤ってはなるまい。

また再発防止対策は、JRや電設への警察・労基署の事情聴取が終了したこれからが本番であり、地電協は二度と痛ましい事故を繰り返さないためにも、今後も事故要因を解明・検証し、会社を糾してゆく決意だ。

【立山昭仁 仙台地本電気協議会新幹線電力分科長】

9・8・8
2・28・23
7・3

第11回執行委員会
地本 JR不採用事件解決報告集会
第24回国労東日本本部定期大会

長い間ご苦労様でした!



沓澤さんから花束贈呈

地方本部は8月9日、ANAホリデイ・イン仙台に於いて、前地本委員長の太田博二さんに感謝する集いを開催しました。

太田さんは、地方本部役員から東日本本部の副執行委員長、一昨年まで仙台地本の委員長を歴任するなど、長年に亘り国労運動の前進に向けた活動をして

苦勞させられた 労いの言葉?

こられました。当日は来賓の皆さんの始めとして、多くの関係者の皆様から労いと感謝の言葉が贈られました。乾杯後のスピーチでもは、時間の経過とともにアルコールが言わせたのか、「苦勞させられました」と本音を飛び出して、会場を大いに沸かせていました。

故菅原次男団員 遺族 菅原芳子さん

▼夫が亡くなり、11月で2



の歴史が子供の成長の歴史でもある▼妻に多くの苦勞をかけ、また仕事(福島教組へ)での異動もあり、親を残しての引っ越し、子供の転校等、家族にも苦勞させた。本当に良かった

▼87年2月の不採用「口頭」通知が闘いのスタート。帰宅し妻に報告、泣かれたが翌日は朝から赤飯。理由は「不当な解雇は許せない。闘うのみ」と告げられ女性の強さ、支えを痛感した▼四党合意さなかの01年、東



仙台闘争団員
佐藤昭一



仙台闘争団員
上遠野 武



仙台闘争団員
田谷良一

二次訴訟を行ったが時効で切られる▼妻に大変な苦勞と心配をかけてしまい、この状態(脳梗塞で車椅子)になったが、JRに採用にされていれば▼23年間の経過を見たとき、手放しで喜べる内容ではない。だが諦めず闘い続けたことが政治解決に結びついた▼雇用問題が解決して、「国鉄闘争の全面解決」と考える。年齢の縛りもあり、雇用の希望はJR関連企業とした。実現に向け頑張りたい

京高裁での本州不採用事件の判決文を読み新たな闘いを決意する。後の鉄建公団訴訟だ▼その証言台に立った法廷でNHKのテレビ番組が流れ、中曽根が「分割・民営化は総評、社会党、国労を潰す目的があった」と堂々とインタビューに答える▼許せないし、政治の力が働いてこの不採用問題があつた▼解決内容に不十分さはある。だがこの闘いを契機とし、労働運動が本来のそれに再生し強化がされるよう切望する

えた。現在は非常勤職員として就労支援等を行っている▼自分の子供も就職活動をしているが不届格の連続。将来を担う若い人が働く意志と能力を持ちながら、仕事に就けないというのは社会の仕組みの歪み▼自分は非正規雇用で手取り10万円。郡山の非正規雇用者割合は45%。健康保険や年金の掛け金未納者も相当数おり、市の財政を圧迫▼闘争団としての闘いは終わるが、課題は多く、みなさんと団結し進めたい

来賓の皆様

(順不同・敬称略)

◆社会民主党 菅野哲雄

◆日本共産党 横田有史

◆弁護士(土)

佐藤正明 清藤恭雄

◆宮城県平和労組会議

菅原晃悦

◆福島県平和フォーラム

大内良勝

◆山形県平和センター

中川一男

◆宮城県労連 鎌内秀穂

◆県交労

太田宏徳

◆国労議員団

佐藤幸夫 石川建治

我妻徳雄 長沢勝幸

田谷 寛

◆交運共済

佐藤勝雄 伊賀 泰

◆福島連帯する会

大野恒夫

◆国労本部 神宮義秋

◆国労東日本本部

高野苗美

◆地方本部歴代三役

千葉五郎 阿部和夫

沼下清一 吉田春美

太田博二 木村昭光

後藤秀一

◆退職者の会

長田貞雄 亀山健司

◆家族会 上遠野ふみ子

◎各支部・地区・分会

代表の皆様、ありがとうございました

国労仙台地方本部「JR不採用問題」解決報告集会 (支部・分会・分連協代表者会議)

